保管用
よくお読みください
保証書別途

取扱説明書

リクライニング車いす

RR50N シリーズ

● 目 次 ●　　頁

	安全に関するご注意	1
1.	同梱部品の確認	6
2	安全ラベル	7
3.	各部名称	8
4.	お使いになる前に	9
5.	各部の操作方法および使用方法	11
6.	安全ベルトの使用方法	13
7.	リクライニングの方法	13
8.	ブレーキの使用方法	14
9.	肘掛けの使用方法	15
10.	脚部の使用方法	16
11.	転倒防止の使用方法	17
12.	背延長の使用方法	17
13.	車いすの主な乗り方	18
14.	点検・保守	20
15.	お手入れの方法	22
16.	保管についてのお願い	22
17.	仕様	23
18.	製品記録	24
19.	保証とアフターサービス	25

このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、商品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。

取扱説明書は適宜更新しております。最新版を弊社ホームページからダウンロードしていただけます（http://www.kawamura-cycle.co.jp/product/manual.htm）。

ご使用になる前に必ずお読みください。また、必要なときにいつでもご覧になれるところへ大切に保管してください。

KAWAMURA 株式会社カワムラサイクル

安全に関するご注意

※ご使用になる前に必ずお読みください。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

［表示マークの説明］

※正しい取り扱いに関する必要事項をシンボルマークで表示しています。

⚠ 警 告	取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
⚠ 注 意	取り扱いを誤った場合、障害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
⊘ 禁 止	してはいけないことを示しています。
❗ 必ず守る	必ずしなければならないことを示しています。

⚠ 警 告	取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています
⊘ 禁止	**●下記の場所には近づかないでください。** **・エスカレーター** **・ぬかるみのある場所** **・凹凸の激しい場所** **・深い砂利道** **・凍結した道路や雪道** **・防護柵のない側溝や路肩付近** **・大きな段差** **・大きな溝** **・急な坂道** **・交通量の多い場所** **・混雑している場所** **・幅の狭い場所** **・夜間、雨や雪が降っているとき** **・風が強かったり霧が深い日** **●下記の場合には、ご使用をお控えください。** **・夜間、雨や雪が降っているとき** **・風が強かったり霧が深い日**

⚠ 警 告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています

禁止

●勝手に改造・分解しないでください。

強度や耐久性が劣化して危険です。また、事故の原因になりますので、絶対に改造・分解しないでください。本来の装着品を外してのご利用も改造の対象となります。

●階段などで利用者を乗せたまま車いすを持ち上げる場合、固定されているパイプを 3～4 人でしっかり支えてください。

※肘掛（アームサポート）、脚部（レッグフットサポート）、押手（手押しハンドル）を持たないでください。これらの箇所を持ち上げると、車いすから外れるなど、大変危険です。

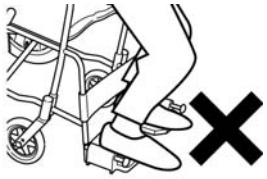
●車いすを持ち上げる際に、車いすにお座りの方の体の一部を持たないでください。

●車いすを火気に近づけないでください。

シート部が燃えたり、プラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど危険です。熱湯消毒についても同様です。

●絶対にステップ板（フットサポート）の上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。

※車いすに乗り降りの際は、必ずステップ板（フットプレート）を上に跳ね上げてください。



●車いすに乗り降りの際は、必ずブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。

●傾斜地では、駐車しないでください。

傾斜地では、ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、大変危険です。

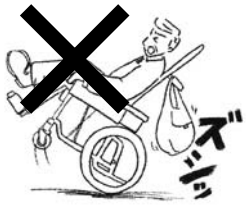
●傾斜地での走行は、車いすが予想外の方向に進むなど大変危険です。

●すべりやすい床面や濡れている床面では、ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。

十分に気をつけてください。

●回転している車輪や可動部に手や指を差し込まないでください。ケガの原因となります。また、タイヤを持って車輪を操作しないでください。

ブレーキ等で指をはさみ、大変危険です。



●複数の人数が載らないでください。

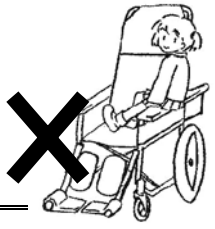
この車いすは、一人用です。破損・事故の原因となります。

●背もたれに重いものを引っ掛けたり、ポケットに重いものを入れないでください。

過度の荷物はバランスを崩し、転倒の原因となります。絶対に避けてください。

●倒れ掛かるような急激な座り方はしないでください。

また、座シート部以外に腰かけないでください。転倒または壊れてケガをする恐れがあります.



⚠ 警 告

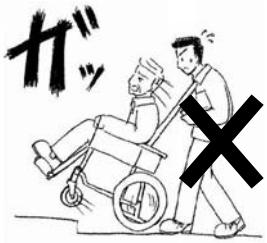
取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています

禁止

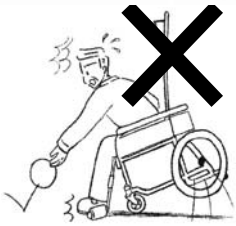
●大きな段差のある場所・階段では使用しないでください。

●段差を乗り越える際には、勢いをつけて乗越えないでください。大変危険です。

また、フレーム及びキャスタ車輪等の故障の原因となります。



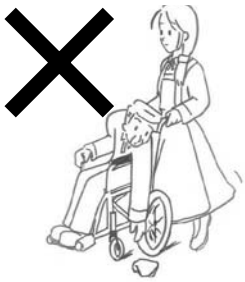
●段差や凹凸などのある路面等を走行するときは、体が前のめりになりすぎたり、前キャスタを浮かせすぎたりしないでください。また、車いすに乗ったまま前方の地面に置いてある物を拾う等、強い前傾姿勢をとらないでください。転落・転倒の原因となり大変危険です。



●車いすでの走行中は、身体を乗り出さないでください。車いすが不安定になり危険です。

●車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾う等、強い前傾姿勢をとらないでください。

車いすごと転倒し危険です。



●介助者は、絶対に車いすに載って介助しないでください。

必ず守る

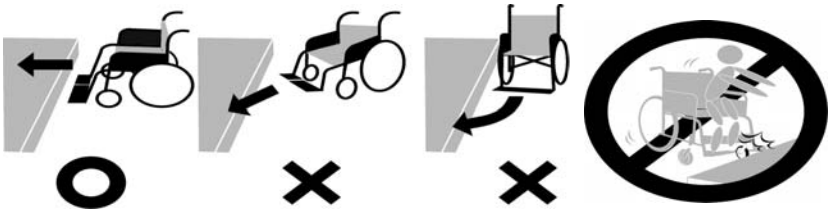
●この車いすは、室内用に設計されています。室内でお使いいただく事を推奨いたしますが、やむを得ず道路通行の際は、必ず右側通行してください。また、歩道を通行してください。

●ご利用者の心身の状況、症状を十分考慮し、適切な介助を行ってください。

●移乗の際は、介助者がしっかりと介護者を支えて行ってください。

●発進するときや段差を乗越えるときには、キャスタのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。

斜めに進入したり、キャスタのタイヤが斜めになった状態で発進すると段澤を乗越えられなくなったり、キャスタの破損やキャスタからタイヤが外れる原因なったり、事故の原因となり大変危険です。



●踏み切りを横断の際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。

斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。必ず介助者と一緒にわたってください。

⚠ 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています

必ず守る

●坂道の上り下りの際は、必ず介助者に支えてもらって走行してください。上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。

※坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

⚠ 注意

取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止

●本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。

事故の原因となります。

●小さなお子様には使用しないでください。

●リクライニング（背もたれを倒した）状態で走行しないでください。

転倒の恐れがあります。

●リクライニング機構（メカニカルロック）部に手や足を入れないでください。

●急発進、急停車、急な方向転換をしないでください。

●夜間、雨降りは外出をお控えください。

通行者や車から発見しにくくなり、事故の原因となります。

●走行する際には片手で操作しないでください。

傘をさしながら、片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。

●ブレーキレバーの作動方向以外に力を加えないでください。

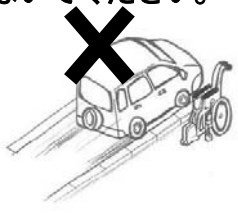
また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。

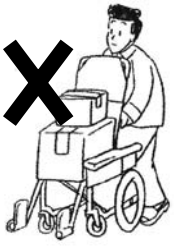
●車いすを投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。フレームが歪んだり、破損の原因となります。

●車いすを物品運搬など車いす以外の目的に使用しないでください。

●下記のようなところに車いすを放置しないでください。

- **車道に近いところ**
- **人通りのあるところ**
- **路面に段差や凹凸のあるとこと**
- **湿気の多いところ**
- **雨風の当たるところ**





●車いすに表示されている「使用者最大体重」は、積載物も含んだ重さです。最大体重を守ってください。

⚠注意

取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

必ず守る

●認知証（痴呆症）の方がご使用される場合は、必ず介助者が付き添ってください。
また、車いすのシート、部品等を飲み込むことや一度かけた駐車ブレーキを不意に解除されることがありますので、充分ご注意ください。

●座面中央部に安定した姿勢で座ってください。
また、介助者は、ご利用者が安定した姿勢で座っていることを確認してください。

●介助者は、ご利用者の身体の一部または衣服がタイヤ、スポーク、キャスタ及び地面、建物、通行者に触れたり、挟まったりしないよう、車いすに安全に座れているか確認してから操作してください。

●安全ベルトは、必ず装着してください。

●ブレーキの効きが強すぎたり弱すぎる場合は、すぐに使用を中止して販売店にご相談ください。
そのまま使用を続けると事故の原因となります。

●ブレーキは必ず手で操作してください。
足などで操作するとブレーキが破損する恐れがあります。

●肘掛け（アームサポート）に腕を乗せたまま、肘掛け（アームサポート）を外さないでください。

●肘掛け（アームサポート）を上げた状態でご使用ください。
転倒の原因となり、大変危険です。

●走行中は、足を必ずステップ板（フットサポート）の上に載せておいてください。
※足を地面につけたりステップ板（フットサポート）から外すと、ステップ板（フットサポート）と地面の間に足が巻き込まれてケガをする恐れがあり、危険です。

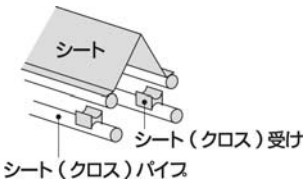
●ステップ板（フットサポート）が障害物に接触しない高さで使用してください。

●ステップ板（フットサポート）に足をのせたまま、脚部（フットレッグサポート）を取り外ししないでください。

●車いすに乗り降りの際は、必ずフットサポートを収納してください。
絶対にフットサポートの上に乗って車いすに乗り込んだり、立ち上がらないでください。転倒の原因となります。

●段差の前では一旦停止してティッピングレバーを利用し乗越えてください。

●シート（クロス）パイプがシート（クロス）受けに収まっている事を確認してご使用ください。
万が一、シート（クロス）受けから浮いた状態でご使用されますと、フレームが歪んだり、故障の原因となり事故につながる恐れがあります。



●シートがやぶれた場合は、必ずシートを交換してください。また、故意にシートを切断する等の加工を絶対にしないでください。シートを破談したり、加工した状態でご使用されますとフレームが歪んだり、破断する原因となります。また、シート取付ネジが歪んだり、欠落すると事故の原因になります。

●面ファスナーに糸くず、汚れなどが付いたときは取り除いてください。
取り除かないと、面ファスナーの接着力が弱くなり、事故の原因となります。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
※以上の注意点以外であっても、無理な使用はおやめください。事故の原因になります。

[製品の特徴・使用目的]

この商品は、リクライニング車いすです。

●背もたれが倒れ、リラックスできる設計です。
●体型・症状に合わせた車いすを選択してください。
●この商品は、一人乗り用です。

１.同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

・ 工具
・ 取扱説明書（保証書はがき）

2.安全ラベル

- 取扱上の重要な事項を記載した安全ラベルが貼ってあります。
- 安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
- 安全ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。

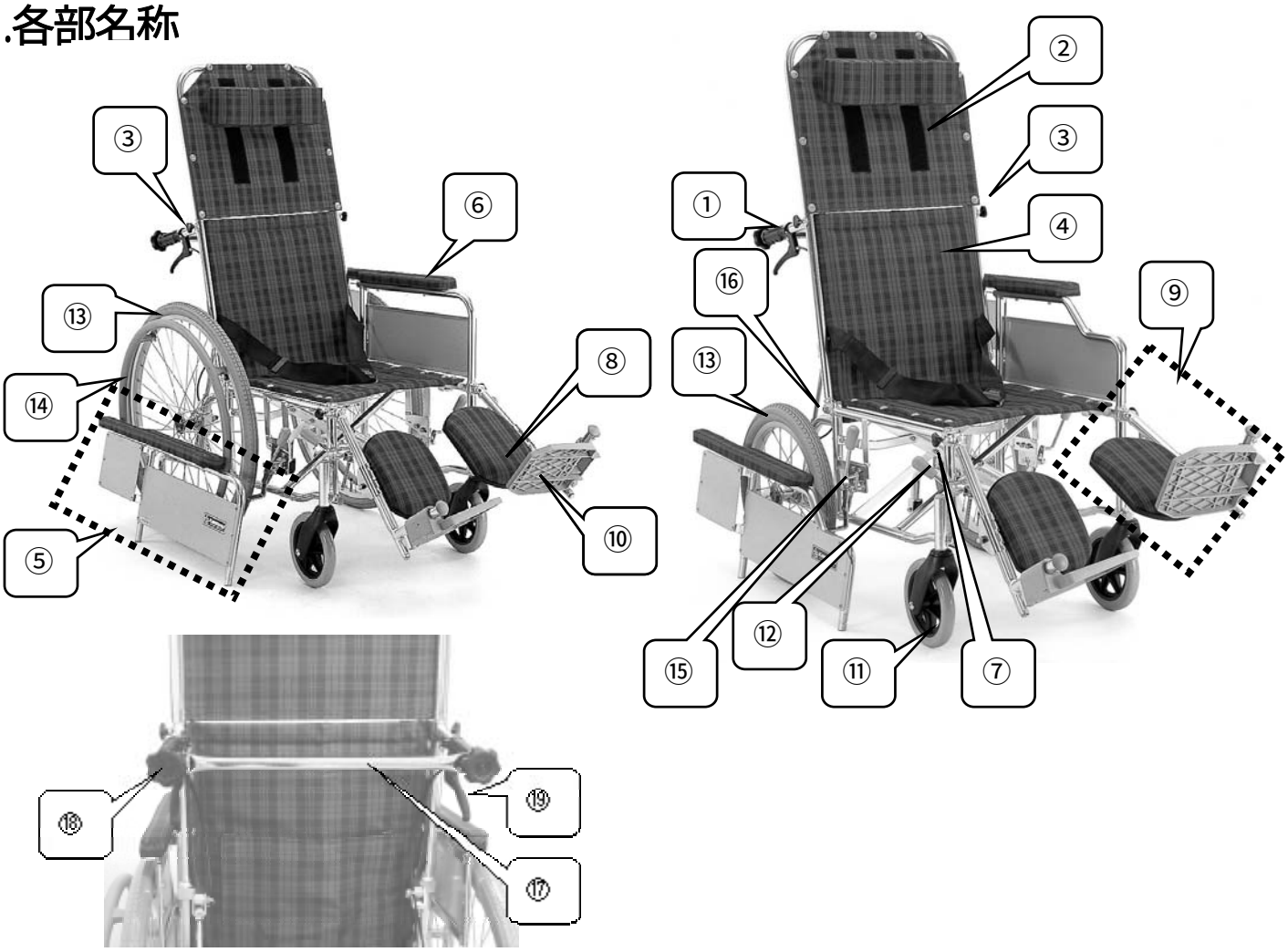
⚠ 警 告 転倒してケガをするおそれがあります

●取扱説明書はよく読み、必ず携帯してください。
●乗り降りの際には、必ずステップ板を跳ね上げて、駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認してください。
●地面に置いてある物を拾う等、強い前傾姿勢を取らないでください。
●段差などを越える場合、前輪を浮かせ過ぎないでください。
●最大積載重量以上の重量で使用しないでください。
●アームサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
●フットサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
●駆動輪やキャスタが外れないことを確認してください。
●座面以外に腰掛けないでください。

⚠ 注 意 ケガをするおそれがあります

●可動部分を持って持ち上げないでください。
●認知症（痴呆症）の方が使用される場合は、必ず介助者が付き添い、安全を確認し、ご利用ください。
●座面が確実に固定されていることを確認してください。
●手や衣服をはさまないようにご注意ください。

3.各部名称



①押手（手押しハンドルグリップ）	介助者が車いすを移動させる際に握る部分です。
②背延長（枕付）	頭部がよりかかる場所です。
③背延長固定用ノブネジ	背延長を固定します。
④背もたれ（バックサポート）	背部がよりかかる場所です。
⑤肘掛け（アームサポート）	着脱式の肘置きです。
⑥肘当て	肘を置く部分です。
⑦肘掛け脱着用ノブネジ	肘掛け（アームサポート）を固定します。
⑧ふくらはぎパッド	ふくらはぎを載せます。
⑨脚部（フットレッグサポート）	足を支持する装置です。
⑩ステップ板	足を置く場所です。
⑪キャスタ（前車輪）	自在に方向転換できる小車輪です。
⑫エレベーティングレバー	脚部（フットレッグサポート）を上下するときに使います。
⑬後車輪	主輪です。
⑭ハンドリム	手をかけて後車輪を廻します。（自走式のみ）
⑮駐車ブレーキ	駐車時に使用します。
⑯メカニカルロック	背もたれを倒す装置です。
⑰ちぢみ止め棒	背にもたれた際、縮むのを止めます。
⑱ちぢみ止め用ノブネジ	ちぢみ止めを固定するノブネジです。
⑲リクライニングレバー	握ると背もたれを倒したり、起こしたりできます。

4.お使いになる前

車いすを使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。
長期間使用を続けると、劣化が生じます。

★装着品の確認

・背シート、座シートは、しっかりと固定されていますか？
・背折れ金具は、しっかりと固定されていますか？
・肘掛け（アームサポート）は、しっかりと固定されていますか？
・クロス（座シートパイプ）は、しっかりと受けに収まっていますか？
・ヒールループ（レッグサポートは、しっかりと取付けられていますか？
・ステップ板（フットサポート）は、しっかりと取付けられていますか？

★後車輪の確認

・タイヤに空気が十分入っていますか？（タイヤを指で押しても容易にへこまないか）
・バルブが緩んでいませんか？
・タイヤにキズがありませんか？異物が刺さっていませんか？
・タイヤの溝が十分残っていますか？変形していませんか？

★ブレーキの確認

・駐車ブレーキ（及び制動用ブレーキ）が正しく作動しますか？
・ブレーキをかけた状態で後車輪が回転しませんか？

★肘掛け（アームサポート）

・スムーズに着脱できますか？
・しっかりと固定できますか？
・キズや亀裂等はありませんか？
・歪んだり、曲がったりしていませんか？
・ノブネジはありますか？

★脚部（フットレッグサポート）

・スムーズにエレベーティング（上下）できますか？
・しっかりと固定できますか？
・ステップ板（フットサポート）がパタパタしていませんか？
・キズや亀裂等はありませんか？

★全体的に

・ガタつきはありませんか？
・まっすぐに走りますか？
・各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
・背シート、座シート、ふくらはぎパッドはしっかりと取り付けられていますか？

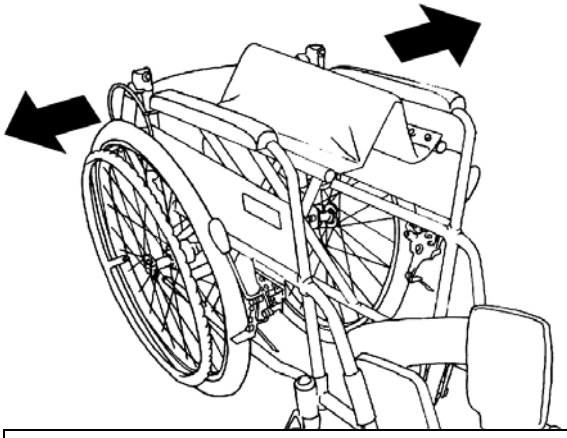
★介助者へ

・長期間の使用や使用頻度によっては、ガスダンパーやキャスタ車輪、フットサポート、アームサポート等の劣化がすすむことがあります。使用前点検を励行してください。異常がある場合は、使用を中止してください。
・次のような場所では必ず介助する人が付き添い、利用者の身体を支えるなど転倒防止に努めてください。
　　・急な坂道
　　・凹凸や段差のある場所
　　・踏み切りの横断、エレベーターの乗り降りなどの溝のある場所
　　・その他危険が考えられる場所
・車いすに載って介助しないでください。
・利用者の身体の一部（手や足）及び衣服が、タイヤに触れたり挟まったりしないよう注意してください。
・利用者の身体の一部（手や足）及び衣服が、建物、通行者及び地面に触れたり挟まったりしないように注意してください。
・車いすに重い荷物を載せたり、押手に提げたりしないでください。

5.各部の操作方法および使用方法

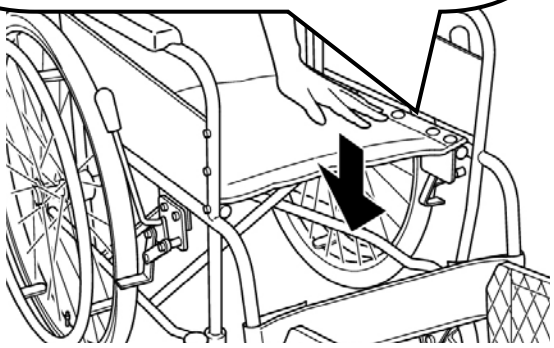
＜車いすの拡げ方＞

①左右に拡げます。



車いすの後方に立ち、左右の肘掛け（アームサポート）を持って両側に軽く広げます。

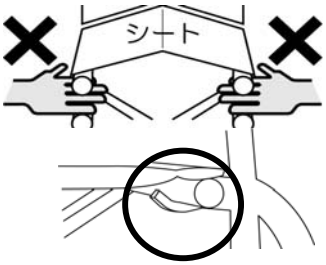
前方からシートパイプをしっかり押さえ、シートパイプ受けにシートパイプがしっかり入るようにします。



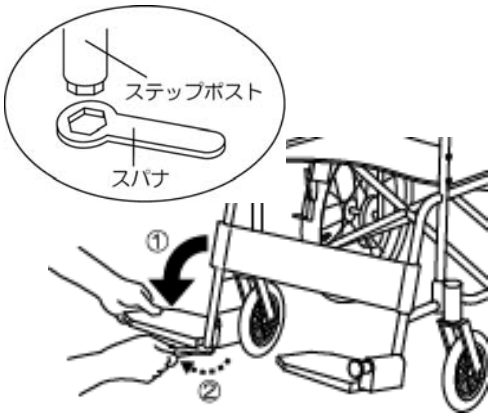
片方のフレームを持ち上げて車輪を少し地面から浮かせ、座面端のパイプ部分を上から手で押し下げます。

⚠注 意

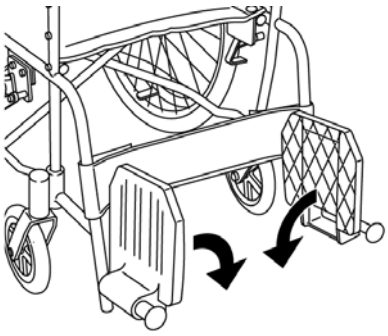
●座パイプの横や下に手や指を置かないでください。挟まってケガをする恐れがあります。
●シートパイプをシート受けに確実に入れてください。フレームが変形して、事故の原因となります。



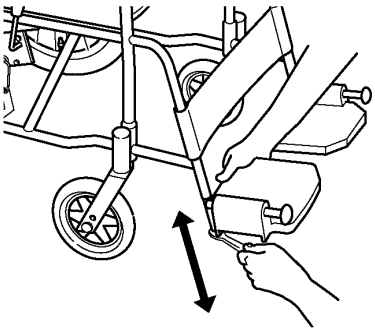
②ステップ板（フットサポート）を取り付け、調整します。



出荷時は、ステップ板（フットサポート）が外側に回転させて折りたたんでありますので、ステップポスト先端のボルトを少し緩め、内側へ回転させます。



ステップ板（フットサポート）を内側にたおします。

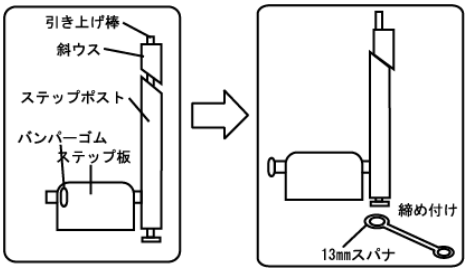


適当な高さに合わせた後、ボルトを完全に締めてください。

⚠警 告

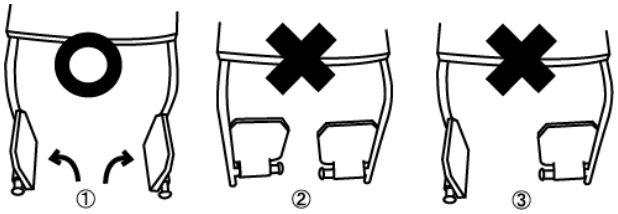
●ステップポストの高さは地面より 5 センチ以上でご使用ください。低すぎると凸凹路面や障害物にステップ板（フットサポート）があたり、転倒する恐れがあります。

●ステップセット先端六角ボルト部分をスパナでしっかりと締め付けてください。締めることにより斜めウスがズレてステップセットが固定されます。締付が弱いとステップセットが外れる恐れがあります。しっかりと固定されている事を確認してご使用ください。

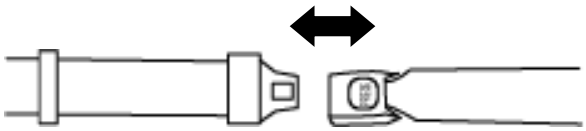


●下図①のようにステップセットを固定してください。

●車いすを折りたたむ時は下図①のようにステップ板を跳ね上げてください。下図②,③のようにステップセットを取り付けると車いすを折りたたむときに干渉し正しく折りたためないため、フレームが歪み車いすに悪影響を及ぼす場合があります。前輪キャスタに干渉しキャスタが回転しにくくなる場合があります



6.安全ベルトの使用方法



車いすに深く腰掛け、面ファスナーの接着部分を 10 ㎝以上重ね合わせてしっかりととめてください。

⚠ 注 意

●シートから落ちるおそれがあるので必ず安全ベルトを使用してください。転落事故の原因となります。
●面ファスナーに糸くず･汚れなどがついたときは取り除いてください。
接着力が弱まり、事故の原因となります。

7.リクライニングの方法

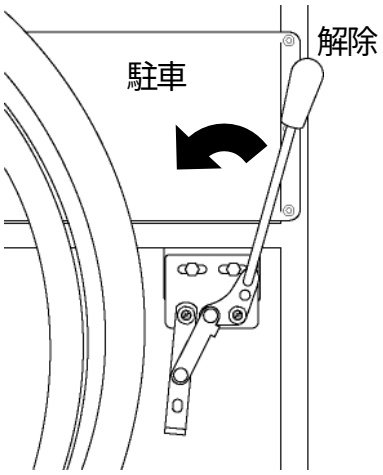
背もたれを倒す場合は、リクライニングレバーを握って、下方向に押すようにして力を加えます。
背もたれを起こす場合は、レバーを握って上方向に引き上げるようにして力を加えます。

⚠ 注 意

● **リクライニングレバーを握ると乗員の体重により背もたれが後ろに傾きます。**
●不意にリクライニングレバーを握らないでください。背もたれが急に傾きます。
●手押しハンドルグリップをしっかり握ってリクライニングしてください。
●リクライニング時は、乗員の体重を支えながら行ってください。
●リクライニングする時は必ず両方のレバーを握り、左右に均等に力を加えて下さい。バランスを崩して転倒したり、左右のフレームが歪んだりする恐れがあります。

8.ブレーキの使用方法

＜駐車ブレーキ＞



車いす乗降時には、必ず駐車ブレーキをかけて、車いすが固定されていることを確認してください。

ブレーキレバーを後方に引くとロックし、レバーを前方にすると解除されます。
※空気入タイヤをご使用の場合、空気圧が低すぎるとブレーキの効きが悪くなります。
目安として、タイヤを手で押してもやや硬い程度（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください

＜介助ブレーキ（バンド式）＞

走行中や下り坂での制動ブレーキとしてご使用ください。
ブレーキレバーは介助者の方が必ず両側同時にかけてください。ブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、離すと解除します。

⚠ 警 告

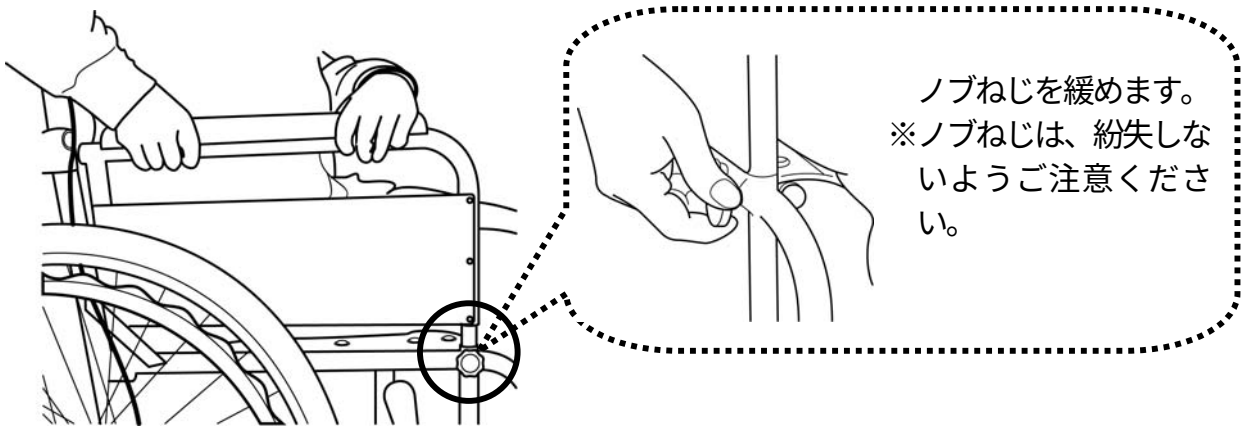
※一ヶ月に一度は安全点検を行ってください。

●ブレーキの効き目が強すぎたり弱すぎたりする場合は、ご使用を中止し販売店にご相談ください。
●ブレーキは必ず手で操作してください。足などで操作するとブレーキが破損します。
●ブレーキレバーの作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形･破損する恐れがあります。

●坂道や傾斜地では駐車しないでください。坂道や傾斜地では駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、大変危険です。（滑りやすい床面などでは駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。）

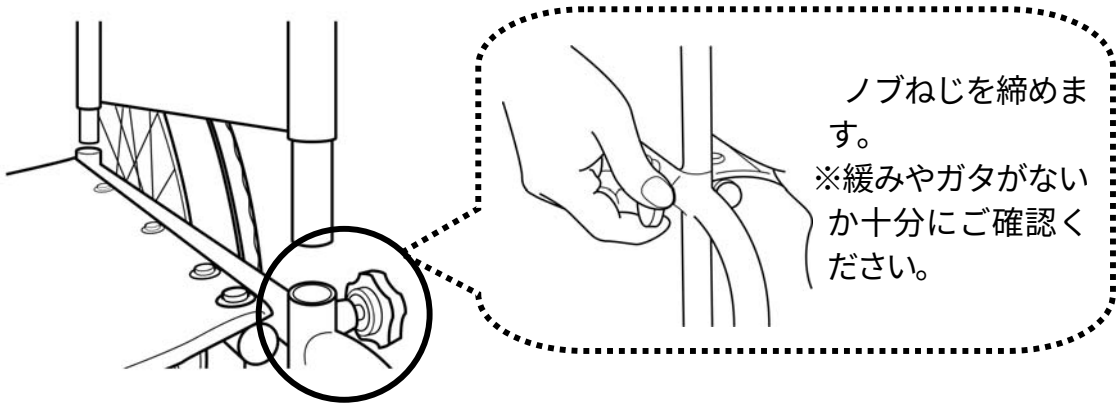
9.肘掛け（アームサポート）の使用方法

外すとき



ノブねじを緩め、肘掛け（アームサポート）両端を両手で持ち、上に引き抜きます。
※無理やり引き抜かないでください。パイプが変形し、取付けできなくなります。

取り付けるとき

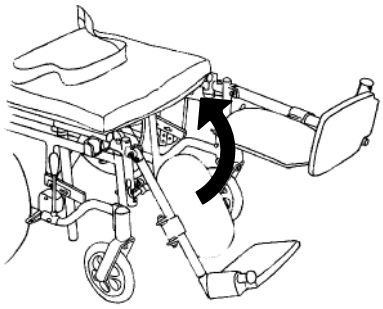


⚠ 注 意

●肘掛け（アームサポート）を調整したあとは、肘掛けがしっかり固定されていることをご確認ください。
●肘掛け（アームサポート）を降ろす際に肘掛けとシートの間で手をはさまないようご注意ください。

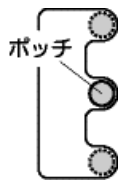
10.脚部（フットレッグサポート）の使用方法

＜エレベーティング（角度を調整）するとき＞

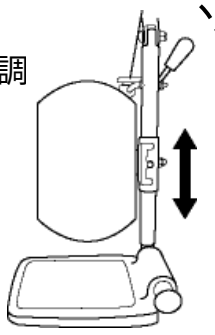


脚部（フットレッグサポート）を矢印の方向に持ち上げます。

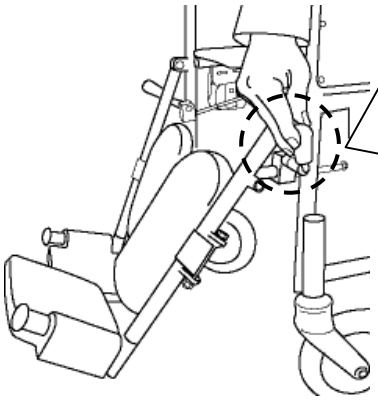
ふくらはぎパッドの高さが 3 段階で調節できます。

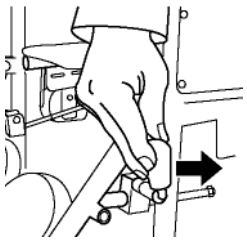


※ポッチが確実に凹部に収まっていることを確認してください。



＜スイングアウトするとき＞

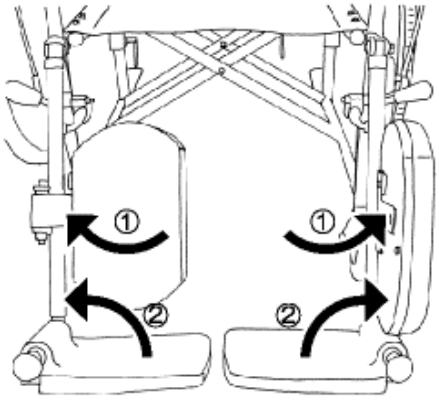




レバーを矢印の方向に引くと、ロックが解除されます。

片方の手で脚部（フットレッグサポート）を支えながら、もう一方の手でロック解除レバーを背もたれ側に倒します。

＜外するとき＞

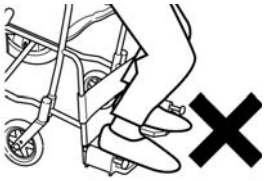


ふくらはぎパッドを左右に、次にステップ板（フットサポート）を上に跳ね上げます。

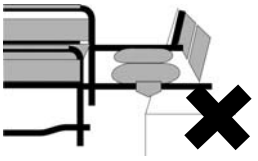
⚠ 警 告

●階段などで利用者が乗ったまま車いすを持ち上げる場合、絶対に肘掛け（アームサポート）や脚部（フットサポート）パイプを持たないでください。万一、はずれたり破損した場合、大変危険です。基本的には 3～4 人で支えてください。
※一段ごとにタイミングをとってください。

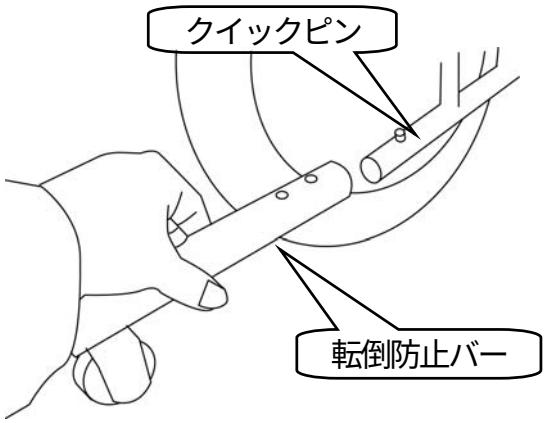
●車いすに乗り降りの際は、必ずステップ板（フットサポート）の上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。



●エレベーティング式の脚部（フットレッグサポート）をベッド等に　乗せての移乗はしないでください。脚部（フットレッグサポート）が破損する恐れがあります。また。車いすごと転倒し、危険です。



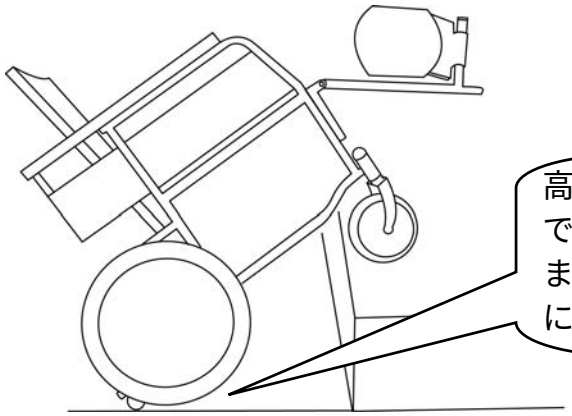
11.転倒防止の使用方法



転倒防止バーの 2 つの穴により長さ調整ができます。
ご使用の際には必ず転倒防止バーがしっかりと固定されていることを確認してください。

＜取り付け方＞
　クイックピンを押しながら、転倒防止バーをティピングレバーに差込ます。
＜外すとき＞
クイックピンを押しながら、転倒防止を引っ張ってください。

⚠注 意

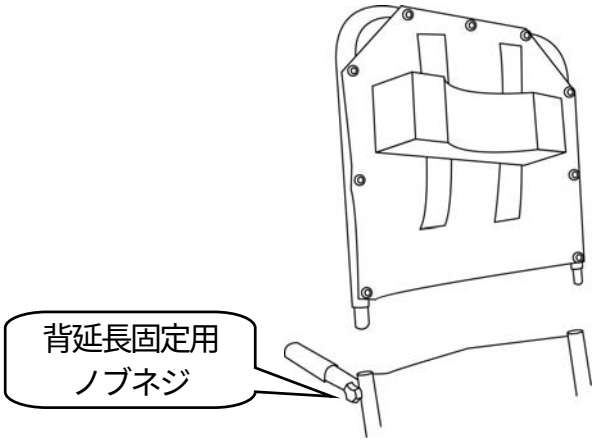


段差を乗り越える際には、転倒防止レバーを外してご使用ください。

高い段差を乗り越えようとすると、転倒防止バーで車いすを支える形となって駆動輪が浮いてしまうことがあります。駆動輪が浮くと押手と車体に負荷がかかり破損の原因になります。

12.背延長の使用方法

　背延長を背パイプ上部に差し込み、背延長固定用ノブネジをしっかりと締めます。
枕の高さを調整してください。



⚠注 意

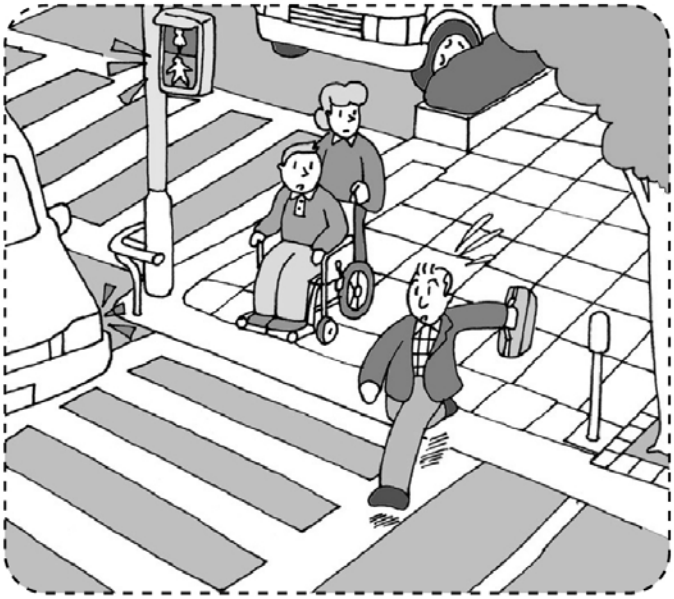
●ご使用前には、必ず背延長固定用ノブネジがしっかりと締まっていることを確認してください。

13.車いすの主な乗り方

⚠ 警 告

●タイヤの空気が十分入っているか確認しましょう。
●下り坂は加速がつき危険です。いつでもブレーキがかけられるよう慎重に。
●いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。
●車道はできるだけ通らず、歩道や十分な幅のある路側帯を通りましょう。

車いすは歩行者として取り扱われます。
歩行者としての交通ルールを守りましょう。



●「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」のマークのある歩行者専用道路も通ることができます。
●信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。次の「青」信号を待ちましょう。

★焦らずゆとりを持った横断、
走行を心掛けましょう。

⚠ 注 意

●車いすは、自動車と同じ乗り物ですから、定期点検が必要です。長期の使用によって劣化が生じます。異常が発生した場合は、直ちに使用を中止してください。

★移乗　車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。
双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。

介助者が片足を相手の膝の間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせます。

介助者の膝で相手を支えながら、車いすの方へお尻を向ける。

ゆっくりと腰を下ろしてもらう。
※「いち、にのさん」と声をかけながらおたがいに協力し合いましょう。

★外出（坂道）　車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”と“安全ベルト着用”が基本です。

＜上り坂＞
押す人は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します。

＜下り坂＞
坂を下るときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。
安全ベルトを必ずご利用ください。

14.点検・保守

1 ヶ月に一度は安全点検を行ってください!!

★タイヤに空気は十分入っていますか？

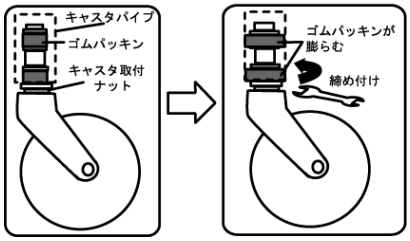
空気入タイヤをご使用の場合は、空気圧にご注意ください。
タイヤの性質上空気は自然と減っていくので 1 ヶ月に１回は空気を入れてください。
目安として、タイヤを手で押してもやや硬い（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください。
空気圧が低すぎると駆動が重くなり、またブレーキの効きが悪くなります。
高すぎるとクッション性が悪くなります。

★タイヤの溝は十分認識できますか？

タイヤの減りが激しいものはパンクの原因になったり走行性やブレーキの効きが悪くなるので交換が必要です。また、タイヤやキャスタのひび割れにもご注意ください。

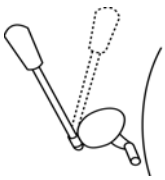
★車輪やキャスタはしっかり固定されていますか？

車輪を留めているボルト、キャスタを留めているボルトは緩んでいませんか？緩んでいると使用中突然車輪やキャスタが外れて転倒するなど大変危険です。充分ご確認の上、しっかりと締めてください。



（出荷時には十分に締め付けてありますが、ご使用されている間に振動により緩む場合がありますので、定期的に点検してください。）
スパナでキャスタ取付ナットを締めると、ゴムパッキンが膨らみ、キャスタが固定されます。キャスタ取付ナットをしっかりと締めてください。締付が弱いとキャスタが外れる恐れがあります。

★ブレーキはしっかり効きますか？



タイヤの空気圧が下がると駐車ブレーキの効きが弱くなります。
空気圧のチェックとともにブレーキの取付ネジの緩み、ブレーキ本体のガタなどがないかご確認ください。もし、異常がございましたら、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

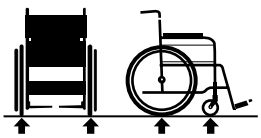
★フットプレートはしっかり固定されていますか？

付属品のスパナを使って、ステップパイプ先端のボルトを緩め、適当な高さに合わせた後、ボルトを完全に締めてください。

★変な音がしませんか?

変な音がする場合、どこでその音が発生しているかをご確認してください。ブレーキワイヤーが車輪に擦れている、ベアリング部の油分が不足しているなどの原因が考えられます。原因が不明な場合、修理不可能な場合はお買い上げの販売店までご連絡ください。

★四点接地していますか？



前輪二輪と中央輪が接地しているかご確認ください。
四点接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。直ちにお買い上げの販売店までご連絡ください。

異常が見つかったらご使用を中止してください。

★まっすぐ進みますか？

平地で車いすを左右均等な力で押してください。自然に曲ってしまう場合、どこかが歪んでいる可能性があります。原因となっている箇所の修理・交換を行ってください。

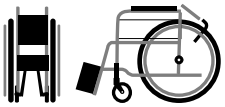
★シートに破損やたるみ、傷みはありませんか？

車いすは湿気に弱いので、雨にぬれる場所などに放置していたり、長時間続けてご使用になるとシートに破損・たるみが発生します。座り心地を損なわない姿勢が保ちにくくなりますので、たるみ・破損が著しい場合は交換をおすすめします。

★ネジの緩みはありませんか？

ガタがある場合は、ネジの緩みや脱落が考えられます。ネジが緩んでいたら必ずしっかりと締めてください。締めてもすぐに緩む、締まらないなどの不具合があれば、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★きちんと折りたためますか？



折りたたみに異常がある場合、クロスの金具のネジの緩みや摺動部分の油切れが考えられます。ネジの締め付け、注油を行ってください。

★ハンドリムはしっかり固定されていますか？（18in のみ）

ハンドリムにガタがある場合、取り付けネジの緩みが考えられます。取付ネジをしっかりと締めてください。

★ワイヤーは切れていませんか？

ブレーキワイヤー、リクライニングワイヤーは切れていませんか？安全のために、１年に１度定期的に交換してください。

★洗浄の際には、水、お湯または中性洗剤をご使用ください。

洗浄後は、充分に乾燥させてください。カビやサビの原因になります。

⚠ 注 意

●スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。
●異常が見つかったら、直ちにご使用を中止して販売店へご相談ください。

15.お手入れの方法

★金属部分（フレーム）

フレームなどの金属部は、乾いた布でよく汚れを落として、自動車用のワックスをかけ、乾いた布で拭き取ってください。スポークの通常のお手入れは、水を用いずに汚れを落とす程度で十分です。凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。

★樹脂（プラスチック）部

樹脂（プラスチック）部品には、市販の中性洗剤をご使用ください。

★クッション、シート類

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。

＜汚れがひどいとき＞

- ●汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を用いてください。その後、乾燥させてください。
- ●しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。
- ●洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。
- ●クッション表面に面ファスナー（オス）が接触しないようにしてください。（クッション生地のほつれ、けばだちの原因となります。）

⚠ 注 意

●熱湯やオゾンで洗浄しないでください。故障・変質・変色の原因となります。
●絶対に背延長を取り外して使用しないでください。転倒の原因となります。
●中性洗剤を使用してください。変質・変色・傷みの原因となります。
●シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。変質・変色・傷みの原因となります。
●たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。傷みの原因となります。

16.保管についてのお願い　車いすは、お手入れ後、安全な場所に保管してください。

⚠ 注 意

●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

- **・車道に近いところ**
- **・人通りのあるところ**
- **・坂道**
- **・路面に段差や凸凹のあるところ**
- **・湿気の多いところ**
- **・暑い日や寒い日の戸外**
- **・海沿いの屋外(潮風の当たるところ)**
- **・雨、風のあたる場所**
- **・ほこりの多い場所**
- **・非常口、消火器、消火栓の前**
- **・直射日光の当たる場所（車内も含む）**
- **・ストーブなど火気を使用し高温になる場所**
- **・子供がいたずらをする恐れのある場所**

17.仕　様

品名・名称			RR50N シリーズ	RR51N シリーズ
座　　幅		(mm)	４００	
前座高さ		(mm)	４５０	
レッグサポート長さ		(mm)	３８０	
後座高さ		(mm)	４２０	
シート奥行き		(mm)	４００	
背もたれ高さ		(mm)	８１０	
アームレスト高さ		(mm)	２５０	
全高		(mm)	1,２３０	
全長		(mm)	1,２５０	1,２３０
全幅		(mm)	６２０	1,１９０
重量	N	(kg)	１８．５	１７．５
	NB	(kg)	１９．５	１８．５
	DN	(kg)	１８．５	１７．５
使用者最大体重		(kg)	１００	
後車輪	N		24in エアータイヤ　ノーマル グレー樹脂ハンドリム付	１6in エアータイヤ　ノーマル
	NB		２４in エアータイヤ　バンド グレー樹脂ハンドリム付	１６インチエアータイヤ　バンド
(タイヤ)		(インチ)	２４ x １ 3/8	１６ x １．５０
(チューブ)		(インチ)	２４ x １ 3/8	１６ x １．５０
キャスタ（前車輪）		(インチ)	７　　ニューソフト、樹脂ヨーク、パッキン式	
フレーム			アルミ　　固定型　リクライニング式	
背シート			ポリエステル　紺チェック（A3）	
座シート			ポリエステル　紺チェック（A3）	
背延長（枕付き）			カバー：ポリエステル　紺チェック（A3）　中身：チップ	
肘掛け（アームサポート）			脱着式（標準型、デスク型）	
(肘当てパッド)			表地：ポリエステル　紺チェック（A3）/中身：チップ	
ハンドグリップ（にぎり）			φ２２mm 用　黒色（反射板なし）	
脚部			エレベーティング式、C-1 ステップセット（グレー）	
(ふくらはぎパッド)			ポリエステル　紺チェック（A3）、樹脂製	
(ステップ板)			c.タイプ　グレー　樹脂製	
駐車ブレーキ			カバーなし駐車ブレーキ	
(ニギリ)			グレー	
リクライニング装置			メカニカルロック	
リクライニングレバー			φ22 用　ブレーキレバー　黒色	
リクライニングワイヤー			黒色　アジャスト付　樹脂ライナー入	
手元介助ブレーキ（NB のみ）			バンド式	
介助ブレーキレバー（NB のみ）			φ22 用ブレーキレバー　黒色	
転倒防止バー			キャスタ付　ステンレス製	

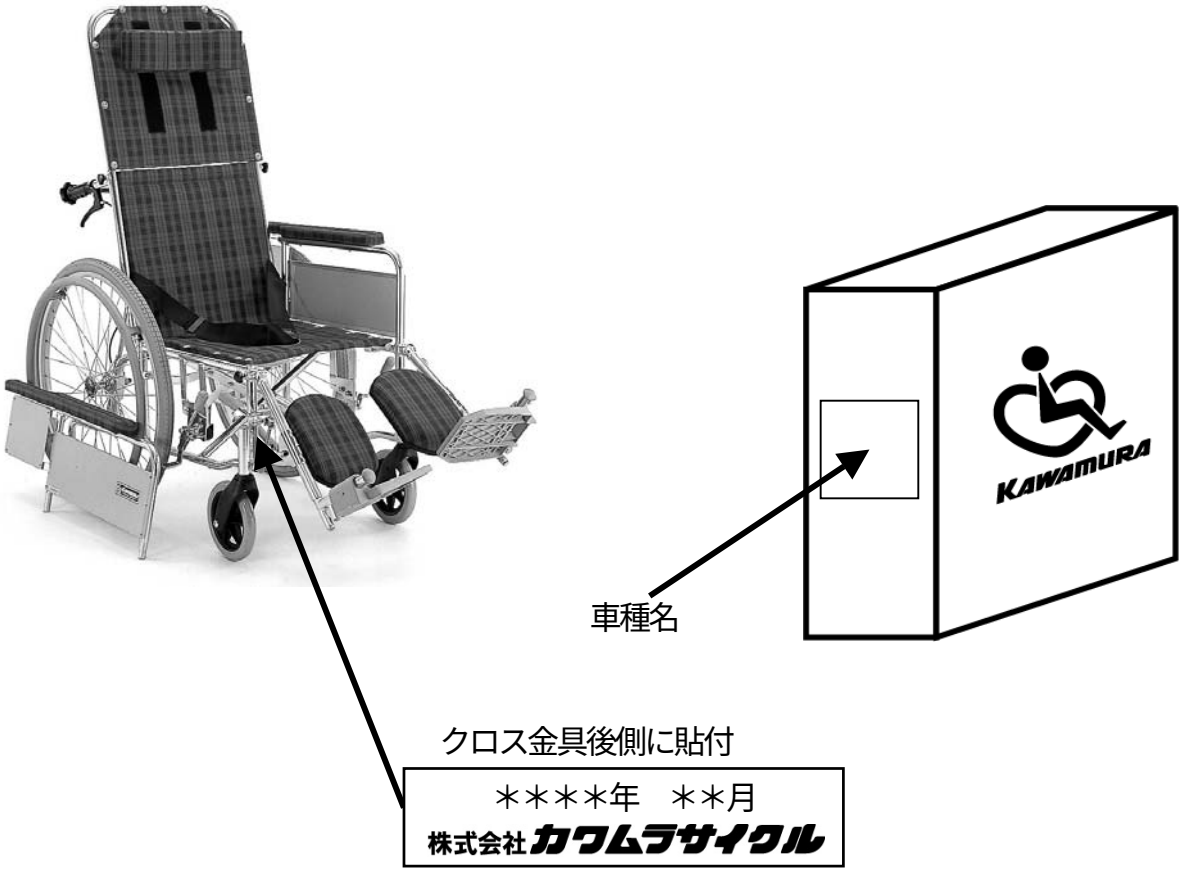
※記載の寸法は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

１８.製品記録

アフターサービスなどを的確に受けるため、車種・製造月を記録しておいてください。

車　　種	
製 造 月	年　　月

＜シール貼付位置＞



19.保証とアフターサービス

弊社の定める保証とは、正常な使用状態において、故障が生じた場合に限り、無償にて修理を行うことをお約束するものです。

★保証期間

この商品には保証書を別途添付しております。保証書は所定の事項を記入のうえ、商品購入後 1 ヶ月以内に当社へご返送ください。

保証期間はお買い上げ日より 1 年間です。

★保証期間後

お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

★保証の適用除外となる場合

（a）ご使用による消耗品および取扱不注意による破損
　例）タイヤの磨耗およびパンク、シート、ステップ板の破損等
（b）地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
（c）お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
（d）保全上の不備および弊社の特約販売店以外で行った修理や改造等による破損
（e）弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
（f）一般に車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
（g）製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
（h）取扱説明書に従わずに使用して生じた故障および破損
（i）取扱説明書に禁じられている使用方法によって生じた故障
（j）ご購入後１ヶ月以内に登録されていない場合
（k）日本国外でご使用の場合

★消耗部品

・肘当てパッド	・ワイヤー	・ふくらはぎパッド
・前輪(車輪のみ)	・背シート	・板バネ
・ベアリング	・座シート	・ガスダンパー
・タイヤ	・足ベルト	・メカニカルロック
・チューブ	・バンド式介助ブレーキ本体	
・虫ゴム	・ドラム式介助ブレーキ本体	

★補修用性能部品の最低保有期間

弊社はこの商品の補修用性能部品を製造打ち切り後、5 年保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

★修理のご依頼

異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店にご依頼ください。

★本製品を他人に譲る場合

この製品を他の方にお譲りになる時は、必ず本書もあわせてお渡しください。

※一度使用したものは、原則として製品のお取り替えはできません。

メ　モ

地球の環境保護のため、

廃棄するときはそのまま放置しないで

各自治体の取り決めにしたがってください。

株式会社カワムラサイクル

■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地3-9-1	TEL078-969-2800
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地3-9-1	TEL078-969-2820
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷1-8-3	TEL03-3874-3511
■横浜サービスセンター	〒220-0073	横浜市西区岡野2-12-9	TEL045-290-9585
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町1-3-11	TEL0568-52-4800
■大阪サービスセンター	〒564-0044	大阪府吹田市南金田2-20-10	TEL06-6190-8488
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡市西区生の松原1-18-3	TEL092-882-4722

■神戸工場　■神戸第二工場　■いなみの工場　■メンテナンスセンター

本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上の為に、一部予告なく変更することがあります。

修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い求めの販売店へお申し付けください。

・転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、上記へ。

2008.11